

もっしえー

2025

9

No. 63

越沢の棚田

「摩耶山」の麓より湧き出でる
「郷清水」は「棚田」をはじめ
近隣の田畑を潤し、
豊かな実りを与えてくれます

農業委員会広報「もっしえの～」 目次

- P2 表紙の紹介
- P2-3 鶴岡市農業者わくわくワークショップ
- P4 SEADS研修生との情報交換会
- P5 お知らせ（農地中間管理事業）
- P6 加入しています 農業者年金

献上穀物 修祓式



第2回 鶴岡市農業者わくわくワークショップ を開催しました

地域・世代を越えた
ネットワークづくりを

令和7年5月31日（土）、東京第一ホテル鶴岡を会場に、一般農業者8名、農業委員15名、来賓として進藤金日子参議院議員、皆川治市長、岡部農林水産部長、事務局職員の合計約30名が参加し、「第2回鶴岡市農業者わくわくワークショップ」を開催しました。

今回のワークショップは、鶴岡市の今後の農業について、女性・若手農業者と先輩農業者が現場の意見を共有し、地域や世代を越えたネットワークづくりをすることや、女性農業委員を中心に企画した意見交換会を通して農業委員会活動を周知することを目的としています。



楽しく意見交換

グループに分かれて

意見交換

はじめに、2つのテーマ（①農業の現状の課題、②5年後の展望）について、参加者が5つの班に分かれてグループワーク（意見交換）を行いました。ファシリテーターの資格を持つ女性委員が進行を務め、皆川治市長、進藤金日子参議院議員にも班に加わっていただき、終始明るい雰囲気意見交換を行うことができました。



紙の
表の
紹介

景勝の地
「越沢の棚田」と「新嘗祭」

名勝「摩耶山」をはじめ、名水「郷清水」、美しい景観の「棚田」など、豊かな自然に恵まれた温海地域の越沢地区。美味しいお米はもちろん、自然の恵みを受けた農作物がたくさんあります。

同じく温海地域の小国地区では、5月17日に「新嘗祭 献上穀物修祓式」が行われました。山形県では各市町村の持ち回りで毎年献納を行っており、鶴岡市では平成6年の旧羽黒町以来、約30年ぶりとなります。田植えの儀及び春の修祓式も滞りなく終了し、美味しい米作りがすすめられています。

令和の米騒動など、稲作には課題が多い昨今ですが、秋の修祓式及び献納を無事に終えられることを願いながら、人々が米の美味しさを再認識し、日本人の主食である米をどのように守り育てていくかを国の政策を含めて共に考えていかなければならない時が来ています。

それにしても白い炊き立てのご飯を食べると、日本人で良かったなあと感じる方も多いのではないのでしょうか。今年も実り多き秋になるよう願っています。

（佐藤宣夫推進委員）



各班の発表タイム

農業・農村の現場において、担い手不足や物価高騰、農地の集積等が課題となっている中、若手を育てるネットワークや女性も活躍できる環境づくりなど、農業者同士のつながりが重要だと考える意見が多く出されました。また、農業のICT化やスマート技術による作業効率化、鶴岡の特産物がもっと有名になることなど、鶴岡市の農業の夢を語り合うこともできました。グループワークの後には班ごとに発表を行い、他の班からの意見やコメントも出され、有意義な話し合いとなりました。また、進藤金日子参議院議員からは講評と情報提供として、食料自給力や幸福度を大切にしたい農業のあり方、地域計画における集積・集約、農業者年金についての興味深いお話も聞くことができました。



夢のある農業と仲間づくりを

今回のわくわくワークショップを通して、皆さんが課題や目標を持ち、頑張っているということに改めて感じました。厳しい農業情勢の中でも孤独にならず明日を見据える事ができる、そんな時間を共有出来たと思います。

お忙しい中、鶴岡市長はじめ、ご臨席下さった進藤金日子参議院議員、また参加して下さいました方々、準備から協力して下さいました事務局の方々に女性農業委員・農地利用最適化推進委員を代表して感謝の気持ちでいっぱいです。第3回も企画していきたいと思っておりますので、広報を読まれた方、ぜひ仲間づくりにご参加ください。鶴岡市農業のさらなる発展に繋げていきましょう。

(齋藤万里子推進委員)





～ 担い手専門委員会活動報告 ～

SEADS (鶴岡市立農業経営者育成学校) 研修生 と農業委員・最適化推進委員との情報交換会



和やかな全体会

令和7年6月25日、SEADS（鶴岡市立農業経営者育成学校）を会場に、同校研修生、農業委員・農地利用最適化推進委員、事務局の計48名が参加し情報交換会を開催しました。

第一部の全体会は会議形式で、旧市町村6地域の農業の概要について農業委員会事務局・分室より説明があり情報共有を行いました。

第二部は2班に分かれてグループワークの場を設け、委員と研修生との自己紹介後、情報交換、質疑応答を行いました。



熱心に情報収集

研修生からは、農業の技術に関する質問はもちろんですが、農業を始めるうえで準備（選定品目、土地、設備、住居、資金の調達等）に対する質問が多く、委員からは質問に対して自身の経験談を交えての回答やアドバイスを多く出されました。

研修生は、卒業生からの情報収集等も積極的に行っており、学校側も我々が考える以上に様々な対応・サポートを模索し実践していました。

研修生17名のうち、親元就農が8名、新規就農が9名という構成で、親元就農と新規就農のスタートライ



たくさんのアドバイスが出されました

ンの違いはとも大きいものであると感じました。他にも第三者継承や雇用就農という選択肢があり、特に第三者継承の場合は先代農家から土地や農機具、施設を引き継げるなど、少ない自己資金で農業が始められるというメリットがあります。今後農業経営に関する積極的な情報提供を行い、研修生、学校側と関わります。

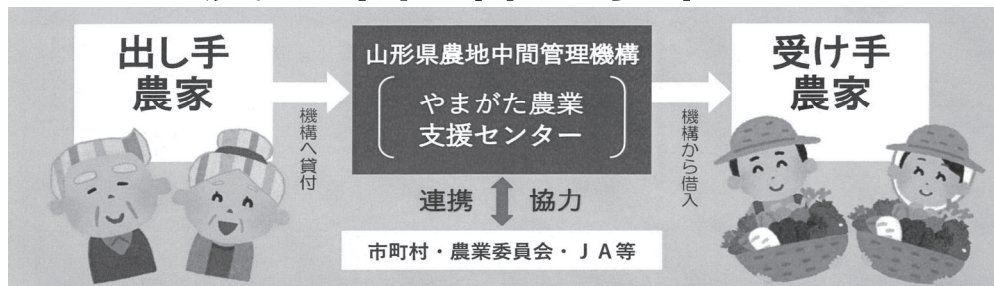
（原田政幸農業委員）

「農サポやまがた」からお知らせです

農地の貸し借りの制度の

※「農サポやまがた」は「やまがた農業支援センター」の愛称です

農地中間管理事業 をご活用ください



出し手農家のメリット

- * 公的機関が農地を預かるので安心です
- * 契約期間終了後には確実に農地が戻ります
- * 賃料は確実に機構から振り込まれます

受け手農家のメリット

- * 複数の出し手農家の農地を借りても契約は機構とのみ行うので手間が省けます
- * 口座振替で賃料の支払いが便利です

農地中間管理事業の手数料について

◎令和7年から農地中間管理事業の利用には『手数料』のご負担をお願いします

農地中間管理事業の運営には、やまがた農業支援センターの自主財源を一部充当している経費があり、この負担が年々増加しています。

このため、将来に向けて持続的、安定的にこの事業をご利用いただけるよう、利用者の皆様に一部ご負担をお願いすることといたしました。

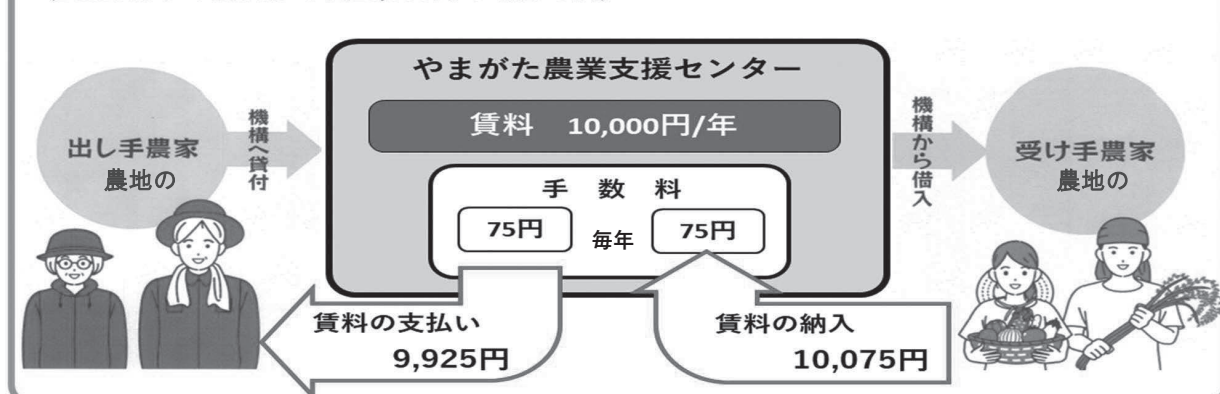
なにとぞ皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

◎手数料の概要

対象者	対象となる契約	納付時期・方法	手数料率	その他
出し手農家 (所有者)	令和6年10月以降に公告となる ・満期再契約 ・更新・新規契約から	毎年11月の賃料支払いの際、手数料を差し引いて支払いいたします	出し手・受け手それぞれ 0.75%	・農地バンク事業の賃貸借契約の際に、出し手農家・受け手農家それぞれから、毎年手数料のご負担をお願いします
受け手農家 (耕作者)	★直ちにすべての契約が対象となるものではありません ★実際の納付は令和7年11月からです	毎年11月の賃料支払いの際、手数料を上乗せして納入いただきます	年間賃料が1万円の場合 手数料は75円	

◎手数料納付のイメージ

(10aあたりの賃料が年間10,000円の場合の例)



詳しくは やまがた農業支援センター (023-631-0697) またはセンターのホームページをご覧ください

第三者継承で就農

自然が豊かな朝日、東岩本地区で水稲14ha、ハウスでは小松菜、山間地の畑ではタラの芽800本を植栽するなど幅広く経営している伊藤理樹さん。

家は非農家でしたが、子供の頃から機械に乗るのが楽しくて本家の農作業を中学生時代から手伝っていたそうです。本家の高齢化をきっかけに第三者継承という形で農地を引き継ぐことになり、高校卒業

加入しています

朝日 東岩本

伊藤 理樹さん(30歳)

農

業

者

年

金

後に農業大学校へ進学し農業に関する技術を一から学んだ勉強家でもあります。

保険料の 全額控除がメリット

前農業委員会会長や現農業委員の地元の先輩からの強力な勧誘があったとの事です。昨年の米価の高騰を受けて、保険料の全額控除が大きかった事、老後に子供に迷惑をかけた程度に暮らせるようにしたいとの思いもあり加入を決めたそうです。

休日は車やバイクでツーリングに出かけていましたが、最近は子供の行事に合わせて休みを取る事が多く、子供が始めたサッカーと一緒にすることが趣味になったそうです。



田植え機に乗ってみたよ!!

楽しく稼げる農業を



将来は、法人化を視野に水稲面積を更に増やしていきたいという目標を持ち、その第一歩として、米の乾燥施設を新たに建設するなど計画的に準備を進めています。自分の世代で農業を終わりにしたくないので「次の世代が憧れるくらいに楽しく、稼げる農業を目指したい」との強い思いを語っていただきました。

小学校の田植え体験田の提供や指導を行うなど、自ら行動するバイタリティーに溢れる伊藤さん。若手農業者のリーダーとして、今後の更なる活躍を期待しています。

(齋藤智推進委員)

あ と が き

近年と違い、今年の春は低温とまではいかないまでも日照不足による作物への影響が大きく、天候に泣かされる業種である事を再認識させられました。

さて、世の中では米価高騰と大きく騒がれていますが、消費者目線だけではなく、なぜ急騰したのか? 備蓄米を放出しなければいけないほど米不足なのか? 他の青果物にも同じ現象が起こりうるのかなど、根本を追求していく必要性を考えて欲しい!

生産者として必要経費・労力を考えると、米に限らず青果物全般がもう少し高値で取引される事を強く望む限りです。

(小林節徑推進委員)

農業者年金に 加入しませんか?

- ① 35歳未満は1万円から加入可能
- ② 認定・青申で国庫補助による手厚い支援
- ③ 保険料控除など税制面での優遇措置



※①は一定の要件があります。

※詳細はお近くのJA各支所、または農業委員会・各分室までお問い合わせください。

鶴岡市農業委員会事務局

〒999-7696 山形県鶴岡市藤島字笹花25(鶴岡市藤島庁舎内) ☎64-5868(直) FAX.64-5846

○鶴岡分室 35-1297 ○羽黒分室 62-2527 ○櫛引分室 57-2114 ○朝日分室 53-2117 ○温海分室 43-4616
http://www.city.tsuruoka.lg.jp/sangyo/nougyouiniaki/index.html 発行/年3回(1・4・9月)



バック
ナンバーは
こちらから